第１回　これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議
議事要旨

１　**日時**　　令和６年１月 29 日（月）　10 時～12 時

２　**場所**　　神戸市教育委員会事務局 教育委員会会議室

３　**出席者**　浅野良一会長、井上和彦委員、岡田恵実委員、齋藤勝洋委員、佐合純委員、
佐藤春実委員、野村和宏委員、舩木伸江委員、ラッシラ エルッキ タピオ委員、
（鴨井幸造委員は欠席のため別途意見聴取）

４　**議題**　　（１）市立高校（全日制）の現状（２）高校を取り巻く状況（３）検討の視点

５　**主なご意見**

これからの市立高校のあり方について検討を進めるにあたり、市立高校の現状や高校を取り巻く状況について確認したうえで、今後の検討の視点についてご意見をいただいた。

【提案した検討の視点について】

・検討の視点としては今回提示されたものが妥当だと思う。市立高校は県立と違って私立に近い攻めの経営ができ、自由度が高いため取組内容の選択と集中が可能である。過去の再編統合も守りではない。入試倍率も高くこれだけ人気のある状態であれば、守りではなく攻めの議論ができる。

・提示されている「検討の視点」については妥当だと思うが、少し抽象的な感じがする。これまでの議論と差別化を図るためには、もう少し具体的な提示があると有難い。

・挙げられている検討の視点は広範囲にわたっているので、全部やるのは難しいのではないか。

【生徒の意識、視点】

・生徒が高校教育の何に魅力を感じているのかを把握することが検討の大前提になる。

・将来、神戸で活躍する人材を増やすという観点からは、学校生活の中で良い体験をすることが必要だ。そのためには、学校の理念、方針、教育内容が首尾一貫していて、学習内容の意義を理解し学んでいる姿が理想である。特に、今の世代にはそういった納得感が重要である。

・学びの主体である生徒自身が、当会議で話し合う内容を自分事にしてもらえるように議論を進めていくことが大事である。

・葺合高では、公開授業等の場で、生徒がいきいきと自分の取組として発信しており、先生の指導や体制に加えて先輩と後輩への繋がりが非常に強いことも影響し使命感を持って取り組んでいる。そういったことがスピーチコンテストやディベートコンテストでよく表れている。また、須磨翔風高では、教員の意識の高さを感じている。学校の枠組が変わっても、現場にいる生徒と教職員がどれくらい自分事という実感を持って頑張る、新しいものを築くという気持ちになれるかは非常に大事である。

・市立高校は多くの良い取組を行っているので、生徒がそれをどう評価しているのかを聞いたうえで、ポジティブな検討をしていきたい。

・（全国の）高校生の社会参画に対する意識が低いのが残念。市のビジョンと高校生の学びが繋がっていたり、高校生の意見が反映されたりする仕組みがあれば良い。
・市立高校の生徒がどのように世の中を捉え、何をやりたいと考えているのかという意識調査があれば見せていただきたい。

【教員の視点】

・教育のあり方を変える時には、教師の視点を取り入れることが必要である。
・机上の空論にならないために、現場で教育に携わる先生方の思いを踏まえて議論できると良い。
・今後の高校がこうあってほしいとか、市立高校としてこのような方向で行くべきであるなど、教員の考えについて調査結果があれば提供してほしい。
・少子化が進んでも教員数はそのままが理想的であり、生徒と教員の人数比率を考え直すきっかけにできれば良い。

【学校外との連携】

（１）産業

・「起業家マインド」「DX 人材」「ICT 活用」「探究学習」というキーワードが見受けられるが、これを教員がどのように行うのかを具体的に考えなければ、教員だけに負荷とプレッシャーがかかる。産業界との連携、協働の強化を画策されると良い。

（２）大学

・受験が終わると気が抜けてしまい、中学、高校、大学が感覚的につながらず、大きな目標をもって勉強するのが難しい。「大学都市神戸」として連携の取組もある中なので、例えば、大学の若手研究者の報告を高校生が聞く機会があれば、勉強の先にある目標を知ることができる。

（３）小中学校、県立・私立高校

・兵庫県は SSH の指定校が全国的に見ても多い。市立高校間の連携だけでなく、兵庫県全体での横の連携とともに、大学あるいは、中学校、小学校といった縦の繋がりも大切になるのではないか。
・市立高校は北区や西区にはないため、例えば地域課題を考えるような学びにおいては、市内にある県立や私立の高校との連携ができればより充実した学習内容になりうる。
・不登校生徒が増加傾向にある中で、市立定時制高校に進学する生徒もいると思うが、市立全日制高校は倍率が高く対応が難しいのであれば、県立や私立との連携が必要ではないか。

【デジタル化への対応】

・ChatGPT をはじめ、IT スキルに特化した内容を若いころから学んでいけば、将来就職したときに企業を変革できるスキルを身に付けることができる。
・大学ではすでに生成 AI を使いこなしている学生も多い。IT や AI を課題解決に活用できる生徒の育成を意識する必要がある。
・これからの時代 ChatGPT や生成 AI などを排除することは難しいと思う。これらをどう活用するか、生徒も含めて現場で考えることが大事である。

【探究学習】

・理系分野や探究の充実は、神戸の産業の担い手づくりの観点からは非常に重要な課題である。
・探究的な学びや主体的に取り組む活動は、普通科の生徒についてはより重要となる。

【広報】

・保護者目線では、市立高校は特色化されているが、子どもが入学して初めて分かった。
・偏差値や大学進学実績は目につきやすいが、学校としての取組の特徴などをもう少しアピールするといいのではないか。現状では外には伝わっていない。
・受験生やその関係者以外にも市立高校の取組を発信していくべきではないか。

【その他】

・「国際」と「グローバル」という言葉が両方使われているが、場面によっては意識して使い分けてもよいのではないか。
・各校の特色を出すにあたり、学校個々の文化をどのように守っていくか、あるいは新しい教育内容となじませていくかを検討する必要がある。
・神戸のブランド力も非常に高いと思うが、事実としてどうなのか機会があれば調査してほしい。